

仲間と協力して作った二鹿野外活動センターのピクトープには、石元さんが育てたメダカも泳ぐ



毎年8月、二鹿野外活動センターで地域の仲間とともにメダカを配布するイベントを行っているのが石元博文さんです。

石元さんが幼い頃から暮らす二鹿地区は過疎化が進み、昔は60世帯近くあった家も今はその3分の1が空き家になってしまいました。ふるさとを活気付けようと、2年前までマラソンイベ

ントを行っていましたが、住民の高齢化でイベント運営が難しく廃止となりました。それでも二鹿地区を盛り上げていきたいと地域の人たちと協力し、いろいろな活動を続けてきました。

もともと生き物が好きで、40年間趣味でメダカを飼っていた石元さんも、自身の経験が地元の役に立てばと思い、仲間の勧めでメダカのイベントを始め、以来18年続けています。

「子供らの夏休みの思い出の1つになればええね」とイベントは毎年夏に開催しています。参加者は子供だけではなく、昔飼っていたことを懐かしみ、年配の人にも訪れてくれるそうです。イベントではメダカの飼いや注意事項を説明し、石元さんが育てたメダカをプレゼントします。参加者は年

々増し、昨年は市内外から100人以上の人が参加しました。「100人も来るとせいがええ」と語る石元さん。子供たちが興味を持って尋ねてくれる姿や喜んでくれる姿にやりがいを感じると言います。メダカは手が掛からず誰でも簡単に飼うことができる所が魅力だそうです。

石元さんはプレゼントするメダカを用意するため、譲り受けた廃材の風呂釜や流し台を水槽替わりに、約500匹のメダカを飼育しています。5月から夏にかけて卵をたくさんかえし、イベントまでに約2千匹のメダカを用意するそうです。

「二鹿に大勢人が来てくれるとうれしいよね。自分らの活動が地域のにぎやかしになれば」と話す石元さん。これからも子供たちの笑顔とふるさと二鹿のために、自分の好きなことを生かし、活動を続けていきます。



イベントは口コミで広がり、当日は近隣市町村や県外からも参加者が訪れる



家の庭に風呂釜や流し台を5つ置き、黒メダカやヒメダカ、白メダカを飼育する



得意なことで

ふるさとに元気を

Vol.133

石元 博文さん
(二鹿在住)

地域の仲間たちとともにふるさと二鹿地区を盛り上げる活動を行っている。自身の趣味であるメダカの飼育を生かし、毎年メダカを配布するイベントを開催している。

